河合神社

●元慶元年（938年）の創建で祭神は武甕槌命。徳川光圀公が誌を詠んだことで有名。

道の駅ひたちおおた

●国道349号バイパス沿にオープンした道の駅は連日、家族連れなどで賑わっている。

道の駅（屋外施設）

●屋外には、こどもの広場やイベント広場、トマトハウスなどもあり、大人から子どもまで楽しめる。

枕石寺（ちんせきじ）

●親鸞聖人直弟である入西房開基の寺。徳川光圀公ゆかりの寺でもある。

防人の歌碑

●防人の歌「久慈川はさきくあ里まで汐舟にまかぢしゞぬき和は帰里古舞」と刻まれている。

久慈川

●福島県から茨城県を流れる延長124kmの鮎で有名な一級河川。

●散策コース●

駅の西側には河合神社がある。徳川光圀公はこの神社の藤の美しさに感動し、詩を詠んだと言われる。さらにそこから桜の名所で鮭や鮎の遡上（そじょう）も見られる山田川に向かって進むと、川沿いには親鸞聖人ゆかりの寺・枕石（ちんせき）寺があり、久慈川との合流部の国道349号沿には防人の歌碑がある。大化の改新後、九州沿岸の防衛という厳しい任務に就く防人が故郷を旅立つ前に詠んだ歌は「防人歌」として万葉集にも収められている。

防人の歌碑から国道349号を北に向かって進むと、先月21日にオープンしたばかりの「道の駅ひたちおおた」が見えてくる。米やブドウ、ナシなど名産品が多い常陸太田の新鮮な農産物がズラリ。地元の素材を生かした野菜バーが自慢で、ビュッフェスタイルのレストランのほか、名物の常陸秋そばや里美地区の牛乳で作った乳製品がそろうジェラート店など、充実したフードコートもある。さらに、体験交流室やイベント広場もあり、食べてうれしい、買ってうれしい、遊んでうれしい空間は、大人から子どもまで、じっくりと楽しめる常陸太田市の新名所となっている。

道の駅（店内）

特産品の直売や地元食材を使用したレストランやフードコートなど人気が高い。

●お問い合わせ／常陸太田市商工観光部観光振興課☎0294（72）8071　●企画・制作／読売茨城広告社☎029（244）5555

Vol.53

駅からのふるさと紀行　JR水郡線

河合（かわい）駅

額田（ぬかだ）｜谷河原（やがわら）

●次回は9月25日「守谷駅」を掲載予定です。

※イラストはイメージです。

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく
ISUZU
茨城いすゞ自動車株式会社
本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215㈹
http://www.ibaraki-isuzu.co.jp

保存版

●路地裏の袋小路にある地上駅。無人駅で駅舎はなくモダンな作りの屋根付きのベンチがある。

●1面1線の単式ホームより額田駅方面を望む。

●久慈川橋を渡るキハE130系

城跡にひっそりと佇む無人駅。美田広がる東側には道の駅がオープン。

水郡線の前身である太田鉄道の水戸―久慈川間が開業したのは明治30年11月。久慈川を渡る橋梁の建設は難航し、太田支線の終点である太田駅（現常陸太田駅）までつながったのは1年半後の32年4月のことだった。建設が難航した久慈川橋梁を過ぎて約500メートルのところに河合駅が新設されたのは、さらに半年後の9月7日だった。

駅のある場所は、かつて河合城の主郭があったところといわれている。目立った遺構はないが、周囲に広大な生産地を抱えており、理想的な立地であったと推測される。城主は佐竹氏の家臣・川井（河合）氏と考えられている。

駅から少し歩けば、緑豊かな美田が広がる。7月21日には国道349号バイパス沿いに「道の駅ひたちおおた」がオープンした。直売所には地域の特産品がそろっているほか、レストランやイベントもあり、連日、多くの人々でにぎわっている。